

# NEWS LETTER



京都教育大学  
附属教育実践センター機構  
教育支援センター

Kyoto University of Education  
Organization of Educational Research and Practice Centers  
Educational Support Center

第36号(2017.10.2)  
Organization of Educational Research and Practice Centers  
<http://cert.kyokyo-u.ac.jp/>

## 京都市立凌風学園リーダー講習会について

8月10日(木)に京都市立凌風学園のリーダー講習会が未来教室対応・高度化授業研究室で開催されました。この講習会の目的は、児童生徒会活動の中心となる集団の確立をめざし、リーダーとしての意識と技能を高めること、リーダーの心構えについて基本的事項を学ぶとともに、今後の児童生徒会活動の活性化を図ることを目的として開催されており、今回は、高等部生徒(7~9年生)40名と学園教員16名、本学学生ボランティア12名の参加がありました。

凌風学園では、自分たちの学園を「誇れる学園」にするために毎年いろいろなテーマを決めて取り組まれており、リーダー講習会では凌風学園の児童生徒会の代表(希望者)がテーマに沿った講義を聴き、ワークショップを行いました。今年度は『風を一つに~未来に向かって架ける虹~』をテーマとし、キーワードを『“つながり”と“時間”』として、「個人個人が時間を大切にすること」と「みんなで過ごす時間を大切にすること」の2つをつなげて、全校でどのように取り組んでいくのかを考えました。

最初に、自らの時間への意識の振り返りを行い、大事に時間を使うとはどういうことかについて話し合いました。そして、学生ボランティアから「時間の使い方」についての経験談を語ってもらいました。

昼休みには食堂にいる学生に「自分にとって、仲間にとっていい時間とは何か」というインタビューを行い、午後からはそれらを受けて、「時間を大事に使うために」というテーマで話し合いが行われました。そして話し合い、経験談、インタビューをもとに3~4名で意見を出し合い、全校で取り組むための企画書を作成していきました。1グループ毎に学生ボランティアが活動に参加し、生徒たちの「学園をよりよくしたい」という熱いおもいに答えようと一生懸命にアドバイスをを行いました。これらのことが現場に出た時の大切な経験の一つになると考えています。

今年で創立6年目となる凌風学園のリーダー講習会は、年々参加する生徒、教員の数が増えており、「自分たちの学園のために」という意識が広がっているようで、生徒と教員が一体となり、よりよい学園づくりに取り組んでいることの素晴らしさを感じます。



## 幼児教育専攻学生による board deco

機構棟玄関正面の貼り絵は、季節とともに変わります。かわいらしい貼り絵を見に来てください。



「夏野菜たちの水あそび」



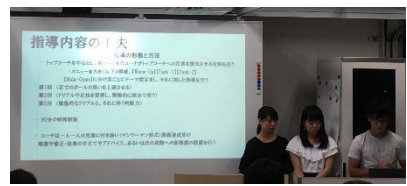
「楽しいお月見」

## 体育・スポーツ指導力養成プログラムより

体育・スポーツ指導力養成プログラムでは、コア授業科目である『スポーツクラブ指導入門』が8月2日の研究発表会をもって終了しました。各教室における指導実習での学びを10分間のスライドにまとめた発表会では、学生同士の活発な意見交換が行われ、「子どもに応じた指導内容の工夫」、「指導者（教員）に求められる資質や能力」、「指示を的確に伝える言葉づかい」をはじめ、多くの学びを共有しました。9月からはインターンシップⅠが始まり、1回生15人（教育1人、英語5人、数学2人、家庭1人、音楽4人、体育2人）が4教室に分かれ、実習が進んでいます。

これまで、本プログラムでは、NEWS LETTER等を通じて学生の活動状況を紹介してきました。この度、本プログラムの中心である「スポーツクラブ指導入門」および「インターンシップⅠ・Ⅱ」における実習の様子などを広く発信していくために、「体育・スポーツ指導力養成プログラム通信」を発行することにしました。今回は第1号として、今年度のスポーツクラブ指導入門の様子を紹介しています。通信は、教育支援センターHPに公開します。是非ご覧ください。(<http://cert.kyokyo-u.ac.jp/bukatsu/student.html>)

なお、通信は右のQRコードからもアクセスできます。



### 体育・スポーツ指導力養成プログラム通信

第1号 2017年度スポーツクラブ指導入門について

陸上教室（参加学生8名、担当教員：杉野進二 客員教授）  
第1回（見学）5/28、第2回（実地）6/11、第3回（実地）6/18

**指導レポートより**

小学生と関わる機会が多いと聞いていたので、早く自分の役割に就きました。実地1では、子どもたちの遊び方、声のかけ方が全然わからず、週に練習しなくてはならないのが自分にとって大きな壁となっていました。週に練習しなくてはならないのは、先生方と違って選手も子どもたちもいないので、練習を断念してしまったり自分自身で練習していました。人間関係を築くことも、初めての自分でも積極的に声をかけていきました。それ以降、かたがたの選手が、自分の手に球をのこすように声をかけようか、どうしたら子どもたちが受け取ってくれるのかを考えていました。また、あまり練習して子どもが疲れてきたらボールを投げようかと考えていました。どうして、自分自身で練習をやらせていくことによって、自分の今の個性がどんどん上がっていくことができました。（中略）

また、肉の置き方や小学生とボールの置き方を練習しました。同じようにでもメニューによって使い分けを覚えたり、実際に練習し始めてから自分がいかに練習しなくてはならないのか、メニューの順番であったり、注意の仕方、子どもたちのやる気の出し方や声かけの練習もすることができました。同じように選手もかたがたの練習をやらせていこうか、と改めて練習しました。子どもたちの個性も発表を付けていこうかという練習もしてきました。（中略）

実地2では、ししゃもメニューを進めることもしました。（中略）実際に練習する場面でも、子どもたちに注目してもらうように練習しようかと思いました。どのくらい練習で練習するか、早くかかると練習しました。（中略）

コメントカードでは子どもたちの声が聞けました。指導者さんのコメントはすごく練習意欲にもなりました。これも教育実習で練習したいという意欲も練習しました。遅くて、辛かったけれど、とても有意義な実地でした。

## “性と生”に学ぶ「人権に基づく性教育」シリーズ（ご報告）

教育支援センター主催「人権に基づく性教育」シリーズの第2回及び第3回を本学で開催しました。

第2回：平成29年8月5日（土）

テーマ：ひとは違っているもの～“多様性”について知る  
～文科省「性的マイノリティ通知」を授業にするために～

内容：セクシュアリティの基本は多様性であり、日本は世界的に遅れていること。遅れの回復のための学びが実践紹介されました。

講師：関口 久志 模擬授業：京都性教協 大江亜紀子 氏、竹花 惇 氏

参加者：28名

第3回：平成29年9月9日（土）

テーマ：『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』学習会  
～世界のスタンダードを日本でも実現するために～。

内容：日本の教育行政では無視されていますが、いまや世界ではスタンダードとなっている性教育ガイダンスを学習しました。

講師：埼玉大学 田代美江子教授

参加者：26名

### 教育支援センター

センター長／モラル・人権意識向上教育部門  
教育実践連携部門  
実地教育部門／就職・キャリア支援部門  
実地教育部門／就職・キャリア支援部門  
実地教育部門／就職・キャリア支援部門  
実地教育部門（兼任）

関口 久志 075-644-8326 sekihisa@  
樋口とみ子 075-644-8337 tomiko@  
西井 薫 075-644-8806 kaoru@  
岡田 敏之 075-644-8214 okada@  
飛田 祥 075-644-8216 tobita71@  
小山 宏之 075-644-8281 koyama@

ボランティアオフィス 075-644-8336（月～水・金 10時30分～13時30分、木 10時30分～14時30分）sien@

学校運動部活動指導者育成室 075-644-8143（月～金 10時～13時 14時～15時）bukatu@

事務担当：研究協力・附属学校支援課 研究協力・センター機構支援グループ kenshien@

TEL 075-644-8335、8242 FAX 075-644-8339 E-mail cert@

